＜　今日の説教のポイント　ルカによる福音書 19 章 11～27 節　＞

1　この例え話を解く鍵は最初に示されている。

ルカは最初にはっきりとこの例え話の意図を記しています(11 節)。すなわち、「イエス様こそ神様からの救い主だ」と思う人たちの多くもすぐにこの世的な神の国（バシレイア：支配）が実現されると思っていた（24:21、使徒 1:6）のに対して、イエス様は「そうではない」と言うためにこの例え話をされたのだ、とルカは説明しています。

2　例え話のポイント①「遠い国へ旅立つ」(12)：すぐに起こらない。

「遠い国へ旅立つ」の「遠い」がそのことを示しています。イエス様が今、十字架に架かるためにエルサレムにいよいよ入られるところだということを考える必要があります。イエス様が十字架に架かって死んで弟子や人々から離れて行かれること、ずっと先に戻って来られることを告げているのです。これは私たちが生きている今この時のことでもあります。大部分の人にとって人生を終える前に主の再臨を迎えることはないと主は言われたのです。

3　〃　②「商売をしなさい」(13)：主から託された務めを果たす。

ここで「商売」と言われている内容は主のために儲けを出す仕事、つまり主が命をかけてなして下さった私たちの救いのための仕事を考えなくてはならないでしょう。さらに、それは「10 人の僕」に命じられており、それは「彼を憎み、自分たちの王としたくない国民」(14)とは区別されています。それぞれ、直接的には、主の弟子たちと主を十字架に架けた人々のことを考えていいでしょう。

4　〃　③「支配権の授与」(17)：この世ではなく、来るべき世の。

「10 の町の支配権」が授与された人をうらやましく思うかもしれませんが、これは遠い先、主の再臨の後のことですから、この世的な恵みではなく、来るべき神の国での恵みを考えなければならないでしょう。そんな先の恵みを言われても仕方ないでしょうか。私は、最近、むしろその逆のことを考えさせられることが多くなりました。この世の全てのものは移ろい、過ぎ去ります。過ぎ去らないものはただ神様のみです（Ⅰペトロ 1:13-25、ヨハネ黙示録 14:6-13、）。人生は空しくはないと思えるのは、この過ぎ去らないお方が「お前はごく小さな事に忠実だったから、10 の町の支配権を授けよう」(17)と言われた言葉にしっかり立って生きていく時だ、最近、特にそう思うのです。